

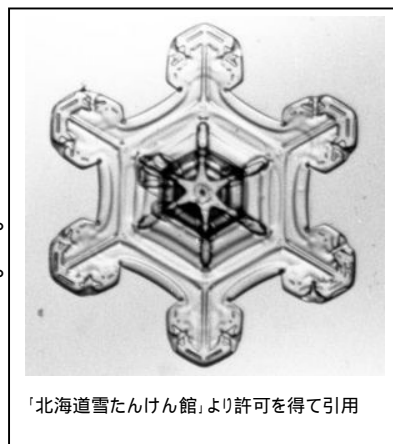
# 理科室からこんにちは

～ 親子で理科を楽しもう ～

平成21年1月14日

## 雪の結晶

今回は、空から降って来る雪の精からの手紙のお話です。空から降って来て、何かに落ちたばかりの雪を見たことがありますか。筆者が小学生の頃は黒いアノラックを着ていました。だから、その黒い袖で雪を受け止めると、とてもよく雪の形が分かったのです。毎朝登校時に、息を止めて見つめていました。そこで気がついたことは、毎日形が異なる、ということでした。針のように細い棒のような時もある、綿ゴミのような固まりの日もありました。雪印のようなきれいな六角にはめったに出会えず、それが見られた日は、一日ごきげんだったような気がします。



「北海道雪たんけん館」より許可を得て引用

では、雪にはどんな形があるのでしょうか。それをとてもよく分類し、まとめられたウェブサイトがあるので紹介します。

「北海道雪たんけん館」<http://yukipro.sap.hokkyodai.ac.jp/index.html>

です。ここの「雪を観察しよう」>「雪の結晶写真ギャラリー」をご覧ください。「えーっ、雪ってこんなにいろいろな形があるのー」と思われることでしょう。ほかにも楽しいページや役に立つページがたくさんなので、是非、訪れてみてください。

さて、たくさんの形があることは分かりましたが、その形を決める要因とは一体どのようなものなのでしょう。その研究を行った世界的な雪氷学者、中谷宇吉郎（1900～1962）先生をご存知でしょうか。彼は、どのようなかたちの結晶が生まれるのかは「湿度」と「気温」の関係によって決まることを明らかにしました。その相関関係を図にしたものは「中谷ダイヤグラム」と呼ばれています。だから雪の結晶を見ることで、上空の湿度や気温が分かるのです。彼が残した有名な言葉「雪は天から送られた手紙である」は、まさにこのことを表しているのです。

丸山稔さん（大阪市立大学）のインターネット講座2004第7回「雪の結晶」

<http://www.sci.osaka-cu.ac.jp/phys/crys/ice/lect7.html>

にも、中谷ダイヤグラムが分かりやすく説明されているので、見てみてください。

冬は寒くていやだなあ、と思うことも多いと思いますが、冬しか体験できない様々なことを積極的に楽しんでいきませんか。右の写真は、窓ガラスで成長中の氷です。これが作る模様もまた美しいものです。今朝はどんな模様かしら、とわくわくできればふとんから出るのもおっくうでないかも……。

